

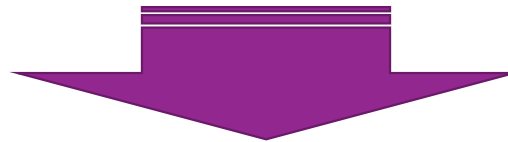
診療所の在り方について

<庁内ワーキングでの意見等>

- ・ 診療所の在り方を検討する場合、個別の利用者の状況（通院回数、通院理由等）の分析が必要になる。
- ・ 廃止や縮小の場合においては、利用者への医療提供が減ることがないように代替措置を検討することが必要。また、診療所機能を病院に集約することで、財政面にどの程度影響があるのか、分析が必要。

<現場の意見>

- ・ システム更新等の費用負担、職員の派遣等の経費が負担となっていることは課題。
- ・ 公民館等を間借りして診療所として使用しているため、医療環境としては不十分ではないか。



<議論結果>

- ・ 在り方を検討するに当たっては、個別の利用者の状況（通院回数、通院理由等）の調査・分析が必要。
- ・ 患者ごとの対応策を検討する必要がある。

<基本情報>

	黒田診療所 (へき地診療所)	宇津診療所 (へき地診療所)	細野診療所	山国診療所
診療曜日	毎週金曜日	毎週火曜日	第1木曜日	毎週水曜日
建物	黒田基幹集落センター内 (自治会が管理)	宇津ふれあい会館内 (自治会が管理)	細野グリーン会館内 (自治会が管理)	鉄筋平屋建 (山国自治会から無償貸与、京北病院が管理)
人員	医師1名、事務職員1名、運転手1名(往復時のみ) ※看護師は年1～2回のインフル等予防接種時のみ同行			
受付時間	14時～15時(診療:14時～16時)			
標榜科目	内科・外科			
診療機能	外来診療のみ(主に対面診察と院外処方箋の発行、まれに採血、関節注射) 血圧計あり、エコー、レントゲン等医療機器はなし、薬品在庫なし(注射は必要に応じて京北病院から持参)			
運用	13時頃 京北病院発(運転手、医師、事務職員)→診療所到着、運転手は京北病院へ戻る 16時頃 運転手が医師と事務職員をピックアップし、京北病院へ帰院 ○持ち物 診察に必要な最低限な物品(筆記具、聴診器、簡易な医療衛生材料など)、紙カルテ(山国だけは、診療所内で施錠管理)、医事会計用PC1台、手持金庫(会計用) ○診察～会計の流れ 事 務: 受付、保険証確認(オンライン資格確認システム整備済) 医 師: 診察、処方(必要により採血や注射) 事 務: PCで医療費計算、院外処方せんを作成、薬の受け取り方法メモとセットで京北病院薬剤科へFAX 京北薬剤科: 処方内容をチェックのうえ患者指定の院外薬局へFAXし、診療所へも連絡 事 務: 患者から一部負担金を徴収 院外薬局: 院外処方せんを受付。調剤後は、患者が直接薬局へ取りに行く、又は院外薬局が患者宅へ配送する。院外処方せん原本は、京北病院帰院後、院外薬局へ渡す。			

<実績>

- ・ 令和5年度の人口は、令和元年度の10分の9、平成23年度（独法化初年度）の4分の3まで減少している。
- ・ 令和5年度の患者者数（全体）は、令和元年度の2分の1、平成23年度の4分の1まで減少しており、人口以上に患者数が減っている。
- ・ 特に、山国診療所の患者数の減少幅が大きく、令和元年度の3分の1、平成23年度の6分の1以下まで減少している。山国診療所の診療日数を週2回から週1回に変更したこと、コロナ禍で患者の受診機会を減らすため投薬日数を長くしたことも理由と推察される。

	診療所患者数(人)			上段：年間	下段：1日当たり		
	黒田※1 (毎週金曜日)	宇津※1 (毎週火曜日)	細野※2 (第1木曜日)	山国※3 (毎週水曜日)	合計	人口 (各年4月)	
17年度	831 (16.6)	1,436 (28.2)	383 (7.8)	3,913 (41.2)	6,563 (26.8)	6,623	
23年度	256 (5.2)	278 (5.7)	151 (3.1)	705 (7.3)	1,309	6,016	
元年度	129 (2.6)	151 (3.1)	100 (5.2)	311 (3.8)	691	5,011	
2年度	125 (2.5)	141 (3.1)	99 (8.3)	284 (5.8)	649	4,810	
3年度	99 (1.8)	83 (1.7)	89 (7.4)	187 (4.0)	458	4,717	
4年度	93 (1.9)	90 (1.8)	86 (7.2)	154 (3.1)	423	4,602	
5年度	100 (2.1)	60 (1.3)	90 (7.5)	105 (2.1)	355	4,527	

※1へき地診療所

※2毎週木曜日開院していたが、著明な患者数減のため平成29年8月から第1・3木曜日とし、常勤医 4 → 3 人への減のため令和2年1月から月1回とし、現在も継続している。

※3毎週月・水曜日に開院していたが、常勤医 4 → 3 人への減のため令和2年1月から週 1 回とし、現在も継続している。

<診療所の決算状況>

- ・ 令和5年度の診療収益は年間約176万円であり、京都府のへき地診療所運営費補助金収入と合わせて年間約500万円である。
- ・ 令和5年度の人件費対診療収益比率は約354. 2%と、人件費(給与費+報償費)が診療収益を大幅に超過している。
- ・ 令和5年度の診療材料費対診療収益比率は約0. 9%と、診療材料費はほとんどかかっていない。
- ・ 令和5年度は人件費や診療材料費を除く支出(費用)も、診療収益を超過している。

		令和元年度	令和5年度
収入	診療収益	3,577,000円	1,761,880円
	補助金収益 ^{注1)}	2,042,000円	3,254,480円
	収入合計	5,619,000円	5,016,360円
支出	給与費(常勤医師)	4,500,000円	4,507,384円
	診療材料費	61,000円	15,108円
	経費	4,703,000円	5,053,716円
	報償費(応援医師)	1,440,000円	1,734,000円
	委託料+保守費用	2,783,000円	2,487,892円
	燃料費	55,000円	7,344円
	消耗品	50,000円	135,650円
	消耗備品	0円	336,050円
	通信運搬費	53,000円	63,593円
	雑費	0円	3,000円
	水道光熱費	322,000円	286,187円
	減価償却費	0円	194,924円
	支出合計	9,264,000円	9,771,132円
収支差		△ 3,645,000円	△ 4,754,772円

・ 人件費対診療収益比率
(診療収益に占める人件費の割合)
＝(給与費+報償費)÷診療収益

令和元年度：166. 1%
令和5年度：354. 2%

・ 診療材料費対診療収益比率
(診療収益に占める診療材料費の割合)
＝診療材料費÷診療収益

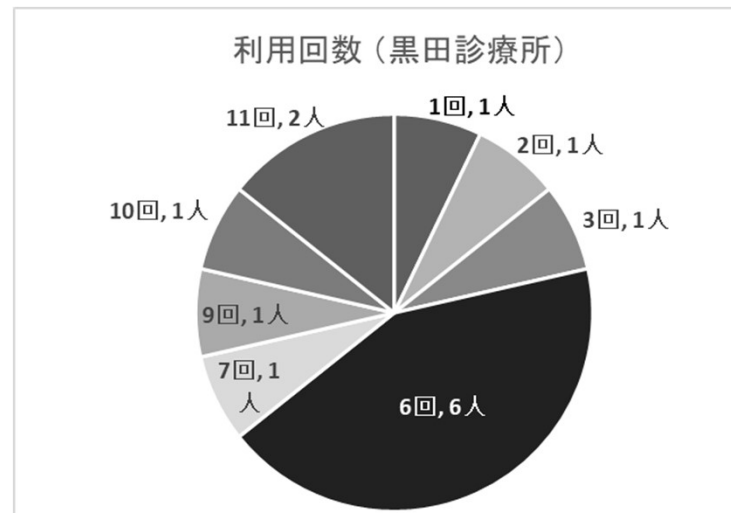
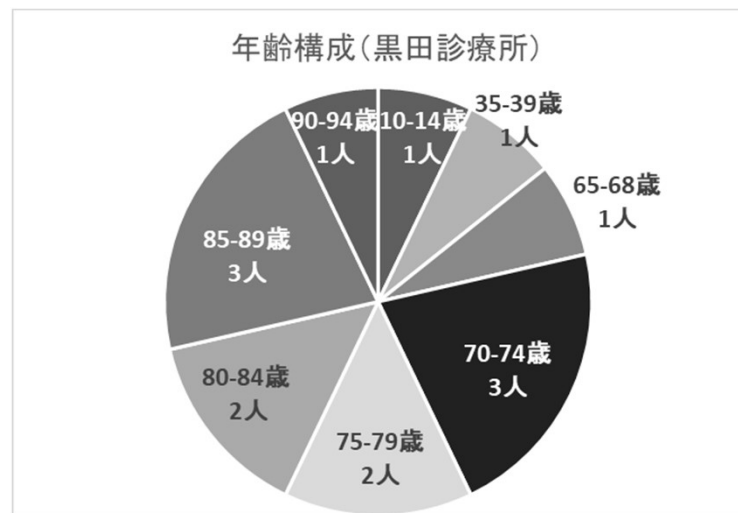
令和元年度：1. 71%
令和5年度：0. 9%

※京北病院データより(令和元年度と令和5年度の支出の算出方法が異なる)

注1) 令和5年度の補助金収益は、京都府医療機関等物価高騰対策事業交付金766,480円を含む

<黒田診療所(毎週金曜日)>

- ・ 1日につき2-3人が利用。月2回以上の利用者はいない。
- ・ 実患者数(実際に利用している患者数)は、14人(女性13人、男性1人)。
- ・ 後期高齢者(75歳以上)の患者数は8人。
- ・ 2か月に1回程度(年6回)の利用が最も多く、年6回以上の利用が14人中11人(78. 5%)。
- ・ 患者の保険請求(レセプト)の項目は、ほぼ診察料、医学管理料及び処方せん発行料(まれに血液検査)となっていることから、継続的に薬物治療を受けていることが推測される。

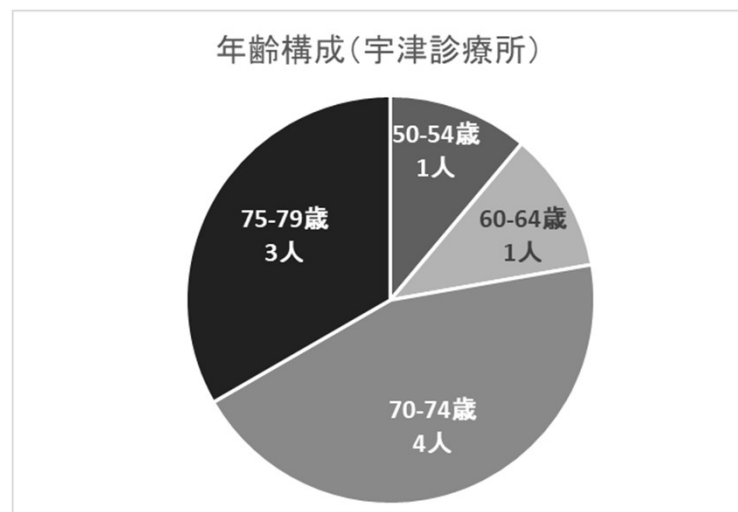


診療収益	536,859円
平均診療単価	5,817円
実受診者数(1か月)	6-11人
実受診者数(1日平均)	2-3人
実患者数	14人

※2023年度レセプトデータより

<宇津診療所(毎週火曜日)>

- ・ 1日につき1-2人が利用。
- ・ 実患者数(実際に利用している患者数)は、9人(女性8人、男性1人)。
- ・ 後期高齢者(75歳以上)の患者数は3人。比較的年齢層が若い。
- ・ 年7回以上利用している患者は、9人中6人(66.7%)。
- ・ 患者の保険請求(レセプト)の項目は、ほぼ診察料、医学管理料及び処方せん発行料となっていることから、継続的に薬物治療を受けていることが推測される。

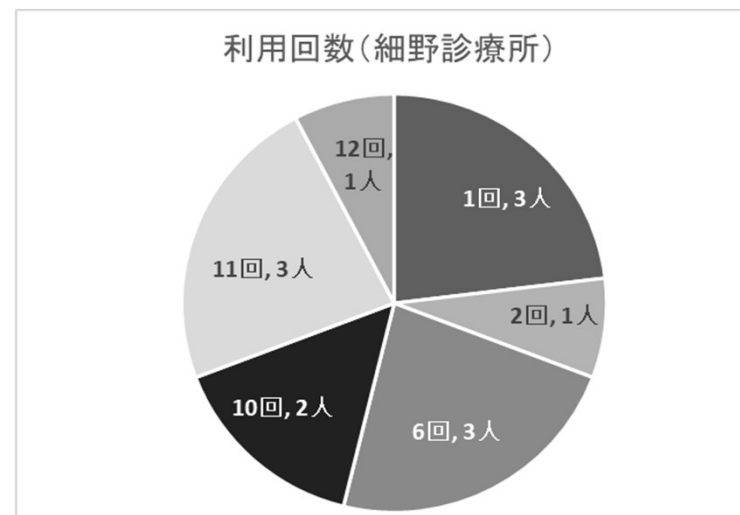
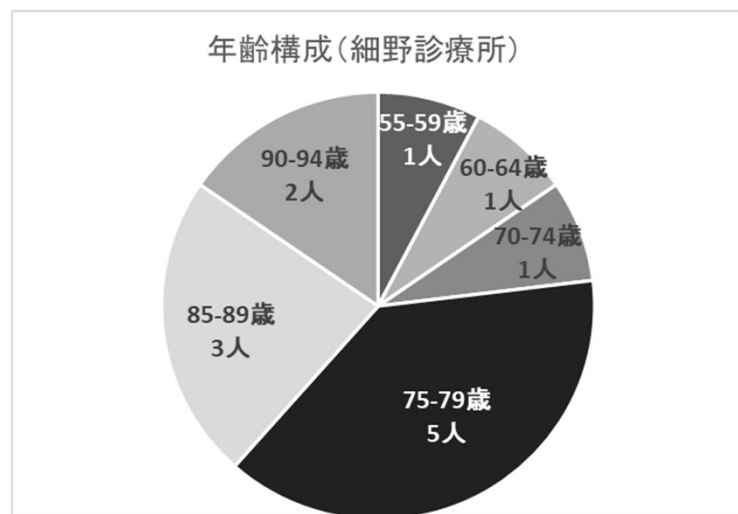


診療収益	242,938円
平均診療単価	4,128円
実受診者数(1か月)	4-7人
実受診者数(1日平均)	1-2人
実患者数	9人

※2023年度レセプトデータより

<細野診療所(第1木曜日)>

- ・ 1日につき8-10人が利用。
- ・ 実患者数(実際に利用している患者数)としては、13人(女性9人、男性4人)。
- ・ 後期高齢者(75歳以上)の患者数は10人。
- ・ 年6回以上の利用が13人中9人(69. 2%)。
- ・ 年10回以上利用している患者(全体の46. 2%)は75-79歳が3人、90歳前後が3人。
- ・ 患者の保険請求(レセプト)の項目は、ほぼ診察料、医学管理料及び処方せん発行料となっていることから、継続的に薬物治療を受けていることが推測される。

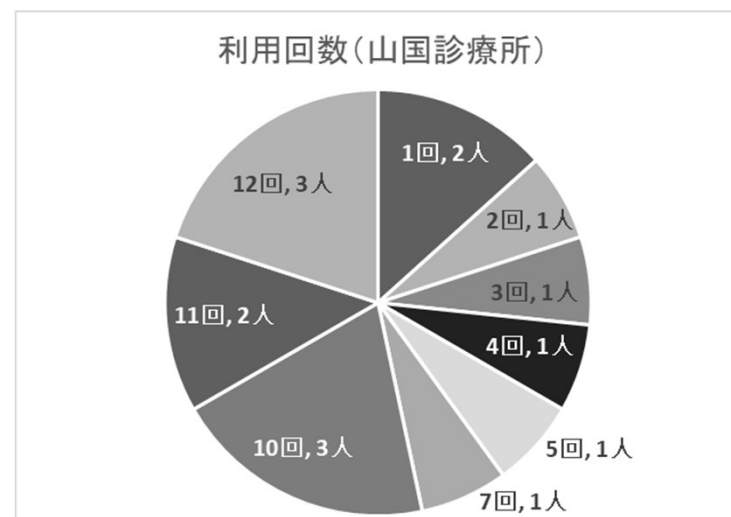
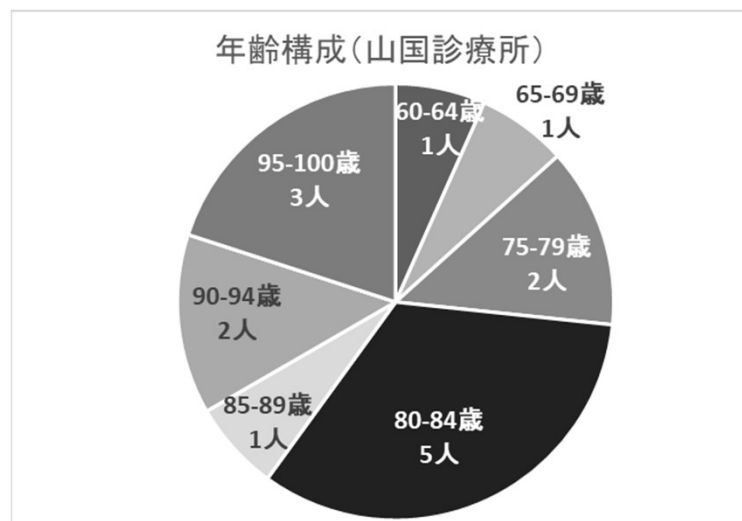


診療収益	413,260円
平均診療単価	4,696円
実受診者数(1か月)	6-10人
実受診者数(1日平均)	6-10人
実患者数	13人

※2023年度レセプトデータより

<山国診療所(毎週水曜日)>

- ・ 1日につき2-3人が利用。
- ・ 実患者数(実際に利用している患者数)としては、15人(女性12人、男性3人)。
- ・ 後期高齢者(75歳以上)の患者数は13人。
- ・ 年10回以上利用している患者15人中8人(53. 3%)は、80歳以上が6人、65-69歳が1人、75-79歳が1人。
- ・ 患者の保険請求(レセプト)の項目は、ほぼ診察料、医学管理料及び処方せん発行料(まれに血液検査)となっていることから、継続的に薬物治療を受けていることが推測される。



診療収益	613,330円
平均診療単価	5,476円
実受診者数(1か月)	8-10人
実受診者数(1日平均)	2-3人
実患者数	15人

※2023年度レセプトデータより

（決算状況）

- ・ 人件費が診療収益を大幅に超過している。

（診療所受診理由）

- ・ 各診療所の受診者の多くは診療所周辺に住所地があり、診療所の診察時間が午後であることから、近所かつ混雑しない診療所に受診していると推察される。

（レセプトデータ等調査結果）

- ・ 細野診療所以外の診療所は週1回診察しており、概ね1回あたり2-3人が受診している。
- ・ 細野診療所は月1回診察しており、1回あたり8-10人が受診している。
- ・ 各診療所の1か月あたりの受診者数は8-11人である。
- ・ 患者の保険請求（レセプト）の項目は、ほぼ診察料、医学管理料及び処方せん発行料（まれに血液検査）となっていることから、継続的に薬物治療を受けていることが推測される。

（まとめ）

- ・ 患者数は大幅に減少してきており、1日あたりの患者数は少なく、高齢化の進展や人口減少を踏まえると、今後も、患者数が増えることを見込むことは難しい。
- ・ 京北病院の外来通院車の活用により、京北病院への通院手段を確保することが必要。
- ・ 薬の受取は院外薬局での受取り、または院外薬局からの宅配が利用されている。
- ・ 診療収益は、人件費より大幅に少ない現状。

⇒診療所の在り方を検討するにあたっては、診療所患者の受診機会を確保し、医療の後退にならないよう注意が必要。例えば、個々の患者の状況を踏まえて、患者送迎や訪問診療の充実、オンライン診療の活用等が考えられる。

(参考)＜外来通院車(行先:京北病院)の経路＞

- ・ 外来通院車・・・7-9人が乗車可能。
- ・ 外来通院車は、京北病院から各停留所への送迎双方に対応している。
- ・ 診療所の受診者の多くは、外来通院車の経路内に住所地がある。
- ・ 外来通院車の利用者数は、黒田・山国エリアで平均2-3人/回。細野・宇津エリアで平均1-2人/回、周山エリアで平均1人/回である。

